

事業名：命の大切さを考える防災教育公開事業（学校安全総合支援事業）

モデル地域：市原八幡高校周辺 拠点校：千葉県立市原八幡学校

所轄教育委員会：千葉県教育委員会 電話番号：0436-43-7811

1 モデル地域の現状

- モデル地域名：市原八幡高校周辺
○学校数：小学校 1 校
中学校 2 校 高等学校 1 校

モデル地域の安全上の課題

東日本大震災におけるコンビナート火災などの教訓を生かし、自然環境や社会環境との関わりを視点に据えた防災教育を推進する目的で、平成31年4月に千葉県教育委員会が市原八幡高等学校に学校設定教科・科目「防災の学び」を導入し、3年間実践した成果を踏まえ、学校種を超えた教科横断等防災教育の実践・普及に活かすことが期待できることから本拠点校を設定した。

2 モデル地域の事業目標

拠点校を中心として、モデル地域内の学校間や防災関係機関等と連携し、学校安全の取組の向上を図る。具体的には、モデル地域内の各学校において危機管理マニュアルの見直しや内容の周知などを行い、日頃の安全教育・管理や危機発生時における各教職員の役割について、共通理解が図れる体制を築くとともに、地域社会全体が連携した防災教育を行うために講演会や研修会、相互授業参観等を通じて、中核教員の資質能力の向上を図る。

3 取組の概要

(1) 実施概要

実施時期	計 画 事 項	参加者
6 月	第 1 回校内委員会 開催	拠点校職員
7 月	第 1 回推進委員会 への参加	教頭
8 月	第 2 回校内委員会 開催（中止） 防災学習施設訪問 （中止）	拠点校職員 拠点校職員・ 中核教員
10 月	第 1 回実践委員会 開催	県教委・学 校・地域関係 者・保護者会 長
11 月	第 3・4 回校内委 員会開催 公開授業 第 2 回実践委員会 開催	拠点校職員 県教委・学 校・地域関係 者・保護者会 長・他校職員
1 月	第 5 回校内委員会 開催	拠点校職員

	第3回実践委員会 開催	県教委・学 校・地域関係 者・保護者会 長・他校職員
2月	第2回推進委員会 への参加	教頭

4 具体的な取組

(1) 安全教育の充実に関する取り組み

ア 安全教育の充実に関する取組

① 実践委員会における情報共有

10月、11月、1月に実践委員会を開催。各実践委員会の中で情報交換の時間を設け、各学校や自治体等の取組等について共有を図った。

<実践委員>

千葉県消防学校総務課長

市原市総務部危機管理課防災担当者

千葉県防災研修センター担当者

市原八幡高等学校保護者会長

市原市立石塚小学校校長

市原市立八幡中学校防災担当者

市原市立八幡東中学校教頭

市原八幡高等学校教頭及び教諭

② 拠点校職員への「防災の学び研修会」の実施。

日時：令和4年4月13日

テーマ：「防災の授業って何をやるんだらう？」

内容：「防災の学び」授業展開方法、パワーポイントの使い方等

参加者：1・2年次職員

参加人数：1・2年次職員15人

③ 公開授業の開催

モデル地域内の拠点校を会場に、公開授業を実施。

日時：令和4年11月28日

テーマ：「防災の学び」

内容：市原八幡高等学校の学校設定教科・科目である「防災の学び」の授業を1年次6クラス、2年次5クラスにおいて実施した。

参加者：1・2年次生徒職員、実践委員、他校職員、教育事務所指導主事

参加人数：1・2年次生徒職員446人、実践委員7人、他校職員5人、教育事務所指導主事1人
各クラスの授業内容

1年A組「クロスロード」

1年B組「火災①」

1年C組「市原市の災害」

1年D組「風水害②」

1年E組「火山・竜巻」

1年F組「津波」

それぞれのテーマについて担当教諭が授業を行った。

2年次各クラスは防災カルタの制作した。

1年次各クラスの年間授業予定は以下のとおり

2022年度 第1年次 防災の学び 年間スケジュール(11月改訂版)							
日	日付	A組	B組	C組	D組	E組	F組
1	4月20日	科リフコフン (副担任)	科リフコフン (副担任)	科リフコフン (副担任)	科リフコフン (副担任)	科リフコフン (副担任)	科リフコフン (副担任)
2	5月11日	地震 (本宿)	パラレル東京① (DVD・担任)	火災① (稲田)	パラレル東京① (DVD・担任)	風水害① (飯塚)	パラレル東京① (DVD・担任)
3	5月25日	津波 (大谷)	パラレル東京② (DVD・担任)	火災② (稲田)	パラレル東京② (DVD・担任)	風水害② (飯塚)	パラレル東京② (DVD・担任)
4	6月1日	パラレル東京① (DVD・担任)	地震 (本宿)	パラレル東京① (DVD・担任)	火災① (稲田)	パラレル東京① (DVD・担任)	風水害① (飯塚)
5	6月22日	パラレル東京② (DVD・担任)	津波 (大谷)	パラレル東京② (DVD・担任)	火災② (稲田)	パラレル東京② (DVD・担任)	風水害② (飯塚)
6	8月31日	風水害① (飯塚)	非常用持ち出し袋 (由利)	地震 (本宿)	市原市の災害 (石塚)	火災① (稲田)	火山・竜巻 (田村)
7	9月14日	風水害② (飯塚)	火山・竜巻 (田村)	津波 (大谷)	ライフライン (稲田)	火災② (稲田)	市原市の災害 (石塚)
8	9月21日	市原市の災害 (石塚)	風水害① (飯塚)	非常用持ち出し袋 (由利)	地震 (本宿)	クロスロード (石川)	火災① (稲田)
9	10月5日	非常用持ち出し袋 (由利)	風水害② (飯塚)	火山・竜巻 (田村)	津波 (大谷)	ライフライン (稲田)	火災② (稲田)
10	11月2日	ライフライン (稲田)	市原市の災害 (石塚)	風水害① (飯塚)	非常用持ち出し袋 (由利)	地震 (本宿)	クロスロード (石川)
11	11月9日	火災① (稲田)	クロスロード (石川)	風水害② (飯塚)	火山・竜巻 (田村)	津波 (大谷)	ライフライン (稲田)
12	11月16日	火災② (稲田)	ライフライン (稲田)	クロスロード (石川)	風水害① (飯塚)	非常用持ち出し袋 (由利)	地震 (本宿)
13	11月28日 課外公開	クロスロード (石川)	火災① (稲田)	市原市の災害 (石塚)	風水害② (飯塚)	火山・竜巻 (田村)	津波 (大谷)
14	1月18日	火山・竜巻 (田村)	火災② (稲田)	ライフライン (稲田)	クロスロード (石川)	市原市の災害 (石塚)	非常用持ち出し袋 (由利)
15	1月25日	フィールドワーク ①	フィールドワーク ①	フィールドワーク ①	フィールドワーク ①	フィールドワーク ①	フィールドワーク ①

④ 講演会の開催

モデル地域内において、千葉科学大学危機管理学部・危機管理学研究科教授藤本一雄氏による講演会を実施。

日時：令和4年10月4日

テーマ：後悔しない防災

内容：被災者の体験談や後日談と実際に現地を訪れた際の写真等の紹介。自助・共助・公助について。千葉県や市原市、その他の地域のハザードマップと被害の実際の紹介。「できる対策」ではなく「すべき対策」の必要性。災害発生時の実際の判断の方法、緊急時の行動モデル、具体的な情報の入手、避難のあり方。以上の内容等について説明していただきました。自然災害が起きてから後悔しないために「自分が…する」、「最悪の結果を回避すること」、「すべき対策」の大切さや普段の行動の重要性を「防災の学び」で高校生

に伝えていく責任を強く感じました。

参加者：拠点校職員、実践委員

参加人数：拠点校職員7人、実践委員7人

⑤ 防災とAED研修会の開催

防災研修センターの協力を得て、拠点校の生徒、教職員を対象に防災に関する知識習得と心肺蘇生法に関する研修を実施。

日時：令和4年7月12日

内容：首都圏防災士連絡会より講師3人招聘、講義「災害について考えよう」と心肺蘇生法訓練。

参加者：拠点校の生徒

参加人数：238人

⑥ 防災講座（実技体験）の開催

防災研修センターの協力を得て、拠点校の生徒、教職員を対象に防災に関する実技体験講座を実施。

日時：令和4年7月13日

内容：消防学校敷地内にて、「初期消火訓練」、「屋内の消火栓の取扱い」、「放水訓練」、「救出訓練」、「搬送訓練」、「救護訓練」を体験した。

参加者：拠点校の生徒

参加人数：192人

⑦ 修学旅行における事前学習及び人と防災未来センター体験

日時：令和4年10月25日

内容：神戸市にある防災未来センターを見学地に設定し、阪

神・淡路大震災について展示物や語り部の講義を受ける体験して、危機意識の高揚を図るとともに防災の学びの必要性をあらためて感じ取ることができた。

参加者：拠点校の2年次生徒職員

参加人数：生徒192人

職員10人



公開授業後の第2回実践委員会

⑧ 学校安全アドバイザーの活用

千葉科学大学 教授 藤本一雄 氏

派遣校数 1校

派遣回数 2回



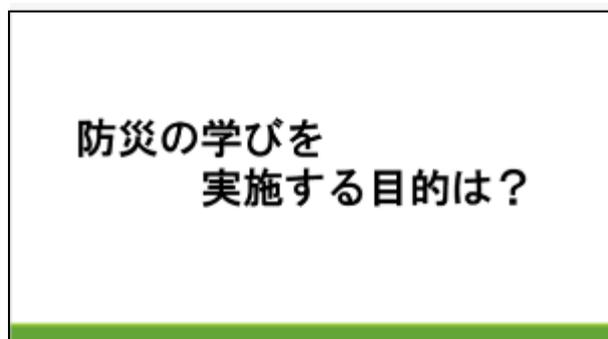
防災とAED研修会



講演会及び第1回実践委員会



防災講座（実技体験）



職員向け研修会のプレゼンテーション



神戸 人と防災未来センター

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

①本モデル地域の成果指標

ア 地学校安全の取組に関する授業公開や成果発表会、研修会等を実施し、その成果等を他校や地域へ情報共有を行った学校は、100%となった。

イ カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、防災教育に係る内容を授業の中で扱った学校は、100%となった。

②拠点校におけるアンケート結果

令和3年度末の1年次生徒の回答「防災の学び」は将来役に立つと思いますか。

・・・・肯定回答71.4%

「防災の学び」が実生活で役に立ったことがある。

・・・・肯定回答45.0%

学校設定教科・科目である「防災の学び」を「役に立つ科目」としてとらえ、意欲的に取り組んでいる様子がわかる。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

モデル地域内の小学校、中学校2校との連携事業を模索したが、コロナ禍の中、計画を実践することができなかった。実践委員会では小中学校の先生方から今後の取組の方向性について、御意見や助言もいただいた。また、市原市の防災担

当者からは、地域自治体との連携について、さらに、千葉県消防学校と防災研修センターの担当者からも新しい企画や研修等について御提案いただいた。

次年度以降、保護者・地域住民、関係機関等と連携した防災、安全管理の取組を計画、実践していきたい。

(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

8月に旭市防災資料館等の見学を予定していたが、「新型コロナウイルス感染症拡大防止」のためやむなく中止とした。

5 取組の成果と課題

【成果】

拠点校の取組として、「防災の学び」の授業を近隣の学校や地域住民、地域自治体の職員等に公開し、研究協議を行うことで、「防災の学び」をより一層深化、発展させていくことが大きな目標であった。3回の実践委員会の開催と授業公開を実施し、地域における防災教育の今後や、小中学校での取組、各発達段階における防災教育の効果や、教育活動の継続について意見交換し、共有できたことは大きな成果であり、次年度以降の取組につなげていきたい。

【課題】

「モデル地域内の学校間や防災関係機関等と連携し、学校安全の取組の向上を図る」や「地域社会全体が連携した防災教育」

という観点について、地域と連携した取組みを効果的に実施することができなかったことは残念である。共通の取組や活動を実施していくために、小学校、中学校との行事の調整や安全管理上の問題等を解消していくことが大きな課題である。

また、課題の2つ目として、「防災の学び」の評価についても、継続して検討していくことが必要と考える。これらの課題解決に向けて、自校での取組みを見直ししながら、地域との連携を図り、強化していきたい。

その他、「防災の学び」の2年次のカリキュラムにおいて、1月から2月の取組が「防災カルタ」と「防災絵本・ポスター」の作成となっている。今後は、これらの作品をモデル地域内の小学校、中学校に紹介し、共有する取組みも実践していきたい。

次年度以降も開かれた学校づくり委員会やミニ集会、保護者会等の場において「防災の学び」について地域との連携を強めていく。